慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	企業におけるドミナント・ロジックの役割 - 日本の大手エレクトロニクス企業を対象とした一考察 -
Sub Title	
Author	上山, 啓(Kamiyama, Kei) 浅川, 和宏
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2005
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2005年度経営学 第2037号 連絡が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002005-2037

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論 文 要 旨

所属ゼミ	浅川 研究会	学籍番号	80430290	氏名	上山　啓

（論文題名）

企業におけるドミナント・ロジックの役割

－日本の大手エレクトロニクス企業を対象とした一考察－

（内容の要旨）

1995年から2002年までの間に日本の競争力の順位は4位から27位と暴落しており、その背後には以前まで日本の産業の牽引役であったエレクトロニクス企業の衰退がある。そこで本論文では大手エレクトロニクス企業を取り上げ、これらの企業が果たして今まで本当に戦略を重要視していなかったのか、そして重要視していたのであればそこには高業績の企業と何が異なったのか、という観点より企業における戦略の重要性について、特に戦略を司る人（経営者）との関係から研究に取り組み、「企業において戦略やミッションをどのように重要視することが実際の経営成果につながるのか」「戦略を司る経営者の戦略への意識はどのようであると経営成果につながるのか」の2つを研究テーマとして取り組んだ。

本論文ではこれらの研究設問を文献研究から仮説を3つ設定し、これらを企業の発行するアニュアルレポート、事例研究、そしてインタビューを通じて考察を加えた。この結果、以下のようなことが明らかになった。

- 企業において明確で分かりやすい戦略的意図をもつことは重要であり、それは経営成果にもつながる。
- 経営者の意志が明確である企業の方が、意志が明確でない企業よりも経営成果が良いものの、明確な意志により戦略が組織にとって分かりやすい形で浸透できていることが重要である。
- 経営者は長期間在任している方が戦略の策定から実行、反省までを全て管理できるうえでは重要であるが、経営者が変わることがあっても創造力に富む戦略的意図を組織が保有している方が望ましい。